

第2学年外国語（英語）科 学習指導案

茨城県立***学校
指導者 ** **

Ⅰ 「論理・表現Ⅱ」における「書くこと」の目標

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

2 単元名 Lesson 5 Japanese Food (BIG DIPPER English Logic and ExpressionⅡ 数研出版)

3 単元を通した「書くこと」における目標及び評価規準

(1) 目標

総合的な探究の時間のゼミで交流している日本語を学んでいるシリアの学生に、日本についてより関心を持ってもらうために、日本の食べ物や文化・由来について、自分の考えや気持ちをまとまりのある段落で詳しく書いて伝えることができる。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分の考えを伝えるために必要となる論理の構成や展開及び表現等を理解している。 ・日本の食べ物について、自分の考えを、論理の構成や展開を工夫して詳しく書く技能を身に付けている。	読み手によく理解してもらえるように、日本の食べ物や文化・由来について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを、まとまりのある段落で詳しく書いて伝えている。	読み手によく理解してもらえるように、日本の食べ物や文化・由来について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを、まとまりのある段落で詳しく書いて伝えようとしている。

4 単元について

(1) 教材観

本単元では、題材を日本の食べ物だけでなく、その背景にある文化・由来にまで広げることによって、生徒が自分の経験を通して考えやすく、主体的に取り組むことができるものとしている。言語材料として受動態を用いた表現を学び、目的・場面・状況に応じたより伝わりやすい英文を話したり、書いたりすることをねらいとしている。

(2) 生徒観

中学校から英語を苦手としている生徒が多く、昨年度後期の CEFR-J の段階（学年平均）は、*であった。技能別では、「読むこと」「聞くこと」に課題を感じている生徒が多いが、「書くこと」には前向きに取り組む様子が見られる。各単元末では、与えられた話題について書いて伝えることに取り組んでいるが、単元で扱う言語材料を適切に活用して表現することが難しい状況である。

(3) 指導観

- ・年度末までに上記Ⅰの目標を達成することを見据え、本単元では、まとまりのある一つの段落で書いて伝える活動を扱う。
- ・本単元の目標である「書くこと」に繋げるために、モデル文を使った音読や簡単なやり取りを繰り返し行い、言語材料の定着を図る。
- ・モデル文の一部を置き換えるなどして、自分の考えや気持ちを表現しやすくなるよう支援する。
- ・イラストを用いたりテリング活動においては、日本の食べ物そのものを説明するだけでなく、自分

- の考えや気持ちを加えることで、より日常的なコミュニケーションの機会とする。
- ・「話すこと」の活動で十分に扱った内容について、「書くこと」の活動を設定する。
 - ・読み手である海外の学生を意識して英文を書くことで、伝えることの喜びを経験させ、英語で表現することに主体的に取り組む態度の育成につなげる。

5 単元の指導計画（4時間扱い）（●：学習改善につなげる評価場面、○：評定に用いる評価場面）

時間	学習内容・活動 (■：ねらい、丸数字：言語活動、※：評価方法)	知	思	態	備考
1	■ 単元の目標を理解し、見通しを持つ。 ■ 海外で人気を得ている日本の食べ物について理解する。 ①海外で人気を得ている日本の食べ物の写真を示し、クラス全体で簡単なやり取りをする。 ※観察、ワークシート	●		●	・単元を通して学習の振り返りは適宜行わせる。 ・本単元で学習した語彙や表現の活用について適宜確認する。 ・ペアやグループでの活動においては音声面や態度面についても確認する。
2	■ 日本の食べ物について、相手にわかりやすく話して伝える。 ①ペアに異なる日本の食べ物の写真を示し、モデル英文の単語や語句を一部置き換えて、相手にその食べ物の特徴や由来などを伝える。 ※観察、ワークシート		●	●	
3	■ 日本の食べ物や文化・由来について説明するだけでなく、自分の考えや気持ちを加えて話して伝える。 ①「すきやき」についてリテリングし、その内容について自分の考えや気持ちを加えて伝え合う。 ※観察、ワークシート、タブレット		●	●	
4 本時	■ 日本に対する関心をより高めるために、交流しているシリアの学生に、日本の食べ物や文化・由来について、わかりやすく書いて伝える。 ①日本の食べ物の写真を提示し、ペアでやり取りする。 ②各自が薦めたい日本の食べ物を決め、その食べ物そのものや文化・由来について、自分の考えや気持ちを加えて英文を書く。 《本時の流れ》 (1) ペアになり、タブレットに提示された画像を使って、前時で学習した語彙・語句の復習をする。 (2) ペアになり、モデル英文を参考にしながら、教師が示した日本の食べ物の写真を受けて、海外の学生にわかりやすく伝えるためにはどう話すのがよいかについて話し合う。 (3) クラス全体で共有する。 (4) 各自が紹介したい食べ物を決め、説明についてのアイデア書き出し、メモを作る。 (5) メモをもとに、声に出してペアで伝え合う。 (6) 英文を書く。読み手にわかりやすい英文になるように、自信のない表現については辞書を活用するなど		●	●	

	して、より適切で豊かな表現を用いることができるよう工夫する。 (7) 英文をペアで発表し合い、相互評価を行う。 (8) ワークシートを読み合い、助言し合う。 (9) 指摘された点を受けて、必要に応じて協働しながら英文を修正し、提出する。 (10) 本時の振り返りをする。 ※観察、ワークシート、タブレット			
後日	作品の共有、ペーパーテスト	○	○	○

6 作品の評価について

(1) 作品の内容

探究のゼミで交流している日本語を学んでいるシリアの学生に、自分が薦めたい日本の食べ物や文化・由来について、自分の考えや気持ちを理由とともに、一つの段落で詳しく書いて伝える。

(2) 採点の基準

「思考・判断・表現」については、以下の三つの条件を全て満たしていれば「b」（おおむね満足できる）とする。

条件1：探究のゼミで交流している日本語を学んでいるシリアの学生に、薦めたい日本の食べ物を提示している。

条件2：その食べ物の主な材料と特徴について述べている。

条件3：相手の状況を踏まえ、その食べ物を薦める理由や文化的背景について述べている。

観点別の採点基準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	語彙や表現の選択に優れ、理解しやすい英文を用いて書いている。	三つの条件を満たした上で、薦めたい日本の食べ物について自分の考えや理由を複数挙げながら、より詳しく書いている。	三つの条件を満たした上で、薦めたい日本の食べ物について自分の考えや理由を複数挙げながら、より詳しく書こうとしている。
b	誤りが一部あるが、理解に支障のない程度の英文を用いて書いている。	三つの条件を満たして書いている。	三つの条件を満たして書こうとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

〔参考〕

生徒による相互評価のためのルーブリック（採点基準を基に作成）

課題	知識・技能（言語面の適切さ）		思考・判断・表現（内容面の適切さ）	
	語彙	文法・表現	構成	内容
a	適切であり、内容を理解しやすい。	適切であり、内容を理解しやすい。	段落としてまとまりがあり、かつ、文の流れが工夫されていて読みやすい。	薦めたいものに対する自分の考えや理由が二つ以上あり、詳しく書かれている。
b	誤りが少しあるが、内容の理解に支障がない程度である。	誤りが少しあるが、内容の理解に支障がない程度である。	段落として書かれており、まとまりがある。	薦めたいものに対する自分の考えや理由が、一つ書かれている。
c	誤りが多く、内容を理解できない箇所が多い。	誤りが多く、内容を理解できない箇所が多い。	必要な情報が足りないため、段落になっていない。	自分の考えや理由が書かれていない。